

日吉台地下壕保存の会会報

第67号

日吉台地下壕保存の会

2003年度総会開かれる

2003年度の総会は2003年5月17日(土)午後1:00より慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎地下シンポジウム室において開かれました。

時はあたかもイラク戦争が終局へ向かう中でしたが、新たな戦争遺跡を作らない、戦争の実相を知るために戦争遺跡の保存をという戦争遺跡の保存運動に投げかけられた大きな課題を少しでも解決するため、昨年度の活動報告と決算、また今年度の方針とその裏付けとなる予算について話し合われました。

総会に先立って日吉台地下壕保存の会初代会長である永戸多喜雄 慶應義塾大学名誉教授に「追憶の中から」～戦時下の日吉キャンパスを語る～と題して講演を頂きました。

講演終了後永戸先生を囲んで懇談会が行われ、戦時下の日吉キャンパスの姿が更に詳細に明らかになりました。

参加者は50人ほどでしたが、内容の深い講演会及び総会となりました。

講演の要旨及び総会の議案書を以下に掲載いたします。



(2)

2003年7月2日(水) 第67号

2003年7月2日(水) 第67号

(3)

2002年度 決算報告(単位 円)

費目	2002年度予算	2002年度決算	備考
【収入の部】			
会費	304,000	242,300	190名・3団体
見学会資料代	100,000	371,500	見学会資料代・ガイド料等
図書等頒布	0	35,463	
雑収入	0	2,700	カンパ等
繰越金	78,525	78,525	
計	482,525	730,488	
【支出の部】			
運営費	70,000	86,742	各種会合・打合せ等
事務費	50,000	80,832	事務用品費等
印刷費	35,000	24,239	会報・資料等
通信費	170,000	155,810	会報郵送費
資料費	50,000	42,700	書籍・資料等
頒布図書購入費	30,000	2,230	
交流・交通費	50,000	50,420	全国集会・各平和展賛助金
謝礼	20,000	7,938	講演・學習・調査等
予備費	7,525	0	
計	482,525	450,911	
差引残高		279,577	

以上の通り報告します

2003年5月15日

日吉台地下壕保存の会
会計 白鶴 邦子

この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査
会計監査森山 高行 印
天野 喬子 印

2003年度活動方針

今年で日吉台地下壕保存の会が発足して14年目を迎えます。現在会員が約300名、運営委員が約20名で、地下壕保存のために、慶應義塾をはじめ日吉地域住民の方々や全国の保存運動に携わっている方々などと協力して活動を行なってきました。

この運動もこの数年いろいろな意味で質的な変化や成果が見られるようになりました。日吉台地下壕は昨年8月に、文化庁が近代遺跡として史跡指定のための、詳細調査対象50戦跡のひとつになりました。この地下壕が社会的に認知され、地下壕の持つ意味が浸透してきた成果によると思います。また、箕輪艦政本部地下壕を慶應義塾大学桜井準也氏と学術調査をやりました。学問的には素人の集団であった保存の会が測量など調査をやり、まだまだほんの小さなことですが学術的な作業も行い、質的に前進したと思います。これからも、保存運動に必要な基礎的な調査を推し進め、学術的な意味を深めたいと思います。この他にも地域の学校を小・中・高等学校合わせて10の学校を案内し、教員研修見学会等なども行い、これからの方々に対する働きかけも進んできました。一般の見学者も含めて、昨年度は1500名以上の方を地下壕に案内しました。

このように、まだまだ不十分で微力ですが、いろいろな活動を行なっています。しかしながら、旧海軍連合艦隊寄宿舎の保存や平和資料館の建設など、問題が山積しています。我々の力だけでは充分ではなく、全国の戦争遺跡保存運動をしている団体、地域住民の方々などとも協力して、今年もより活動を質的にも高めて進めていきたいと思います。

そのために以下の活動方針を提案したいと思います。

活動方針

- 日吉台地下壕内の整備・活用方法を考え、その実現に努力する。
- 日吉台地下壕見学会の内容を充実させ、より頻繁に開催する。
- 小中高生徒のための見学会を開催していく。
- 日吉台地下壕の学術調査・研究及び学習会を開催する。
- 日吉台地下壕平和資料館建設を目指し、実現に努力する
- 慶應義塾・横浜市・県・国への働きかけを地域の方々と連携して行う。
- 全国の戦争遺跡保存の会との連携を深め、保存運動を盛り上げていく。
- 運営委員会の活動の充実と強化をはかる。

2003年度 予 算 (単位 円)

費 目	2003年度予算	備 考
【収入の部】		
会費	300,000	
見学会等資料	100,000	
図書等頒布	0	
雑収入	0	
繰越金	279,577	
合 計	679,577	
【支出の部】		
運営費	90,000	各種会合・打合せ等
事務費	80,000	事務用品費等
印刷費	35,000	会報・資料等
通信費	170,000	会報郵送費
資料費	50,000	書籍・資料等
頒布図書購入費	50,000	
交流・交通費	70,000	全国集会・各平和展賛助金等
行事費	30,000	
謝礼	20,000	講演・学習・調査等
予備費	84,577	
合 計	679,577	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2003年5月17日

日吉台地下壕保存の会
運営委員会

新運営委員会メンバー

会長 大西章
 副会長 新井揆博 鈴木順二

運営委員	岩崎昭司	大久保隆	岡上そう	亀岡敦子	喜田美登里
	鈴木高智	白鶴邦子	谷藤基夫	常盤義和	都倉武之
	富澤慎吾	中沢正子	中谷俊吾	林ちづ	茂呂秀宏

会計監査 天野喬子 新井千代子

顧問 永戸多喜雄 佐藤林平 鮫島重俊 東郷秀光

永戸先生講演要旨 (1)

「追憶の中から
 一戦時下的日吉キャンパスー」

私は1941(昭和16)年に文学部予科1年に入りました。現在の高校校舎です。第一校舎の向かいにある校舎は第二校舎となっていて当時は医学部の校舎として使われていました。文学部に入ったのですが、当時圧倒的にクラスが多かったのが経済学部、1年に15~6クラスもありました。文学部は予科に関しては多くても3クラス、非常に少ないものでした。当時は第二外国語、ドイツ語かフランス語を選択しなければなりませんでした。私たちはフランス語を選択しました。今日ここでお話しするに当たって橋本みちおさんがここにいらっしゃるのですが、丹念に学園生活について当時のお書きになっています。

私は中学を卒業してから浪人したりしましたが、クラスにはいろんな年齢の人達がいました。その中でもいくつかのグループがあって、気のあったメンバーで大学生活を過ごしていました。予科1年の時、慶應では既に丸刈りにしなくてはならないというおふれがありました。それについては白井厚先生が学生と共に戦争以前についてまとめた本が出版されています。服装についても厳しいことが言われていて、各教室には掲示が貼られていました。「気品の源泉」「智徳の模範」ということがうるさいほど語られていたのですが、そんなに気になりませんでした。というのは生まれてから社会の雰囲気が硬く、だんだん時代を追うごとに厳しくなっていったので、幼い頃から分かっていたことだからです。

私たちが予科に入ったときは現役配属将校が2名、教官といわれる退役軍人(陸軍の

軍人)が8名いました。教練というのは私たちのクラスだけかも知れませんが、最も苦手とするところで、できればサボりたいと思って皆勤はしませんでした。

予科の1年の教練の時です。その時は現役の教官が配属されていて、その人は大変人気のあるひとでした。名前は間違えると失礼かも知れませんが確か石井さんという方でした。普段は私たちの所は年輩の人が、当たっていたのですが、その年輩の人はまあ、こいつらに言っても仕方がないと思っていたのか、そんなに厳しく言われませんでした。しかし石井さんは厳しかったです。若かったからですね。血が熱かったのでしょう。彼にまつわるエピソードをひとつ・・・

シカミ君という変わった面白い人がいました。風呂敷包みを持っていつも登校していました。その雰囲気が気に入らなかったのか、石井中尉は怒りまして、彼を記念館の前でぶん殴ったのです。「お助け下さい」と平伏してシカミ君は懇願しました。しかしその態度にさらに激高して中尉はとうとう刀を抜いて「たたき殺すぞ」と言いました。その瞬間シカミ君はあわてて立ち上がり日吉駅の方へ走って逃げていきました。



(以下 次号に続く)

第7回戦争遺跡保存全国シンポジウム 大分県宇佐大会に多くの方の参加を 大会要項(案)発表される

一昨年の神奈川大会、昨年の甲府大会に次いで今年も全国大会の季節がやってきました。今年は九州の大分県宇佐市で8月23・24日に渡って開催されます。



日吉台地下壕保存の会は戦争遺跡保存全国ネットワーク設立団体のひとつとしてこの大会に当初から参加してきました。

大分県宇佐市は八幡信仰の総本社宇佐八幡宮の宮どころとして有名であり、またかつて旧宇佐海軍航空隊が置かれ、今も戦争の実相を伝える戦争遺跡が多く点在します。特に掩体壕は10基現存し、そのうち一基が沖縄県南風原町陸軍病院壕に次いで全国で2番目に早く市指定史跡として保存されています。また近くの中津市は慶応義塾の創立者福沢諭吉の出身地であり、杵築市は日吉台地下壕で指揮をした連合艦隊司令長官豊田副武の出身地でもあります。このように大分は日吉台地下壕と縁の深いところです。多くの方のこの大会への参加が期待されます。

1. 場所 宇佐市文化会館小ホール

2. 日程 2003年8月23日(土)～24日(日) 2日間

23日 午前 見学会(9時～12時30分)

午後 全体集会(13時30分～17時)

開会セレモニー 基調報告

記念講演 永原慶二(橋大学名誉教授(歴史学))

演劇 宇佐市の戦争遺跡の保存と活用

パネルディスカッション 懇親会

24日 分科会 第一分科会「文化会館小ホール」

第二分科会「保存運動の現状と課題」

第三分科会「調査方法と保存整備の技術」

全体集会 戦争遺跡保存全国ネットワーク第7回総会

3. 参加費 一般 1000円 学生 円(未定)

見学会 2000円(昼食代含む)

宿泊費 10000円(前泊、後泊5000円)(交渉中)

懇親会費 500円

4. 申し込み手続き

一般参加の場合 (見学会、宿泊、弁当を希望される場合は
必ず事前申し込みが必要)

締め切り 8月5日まで 申込先 大分交通公社

その他詳細については日吉台地下壕保存の会運営委員までお尋ね下さい。

●活動の記録 2003年4月～6月

- 4／18 第10回運営委員会（慶應高校物理教室）会報66号発送
- 4／19 地下壕見学会 J R 東労組 24名
- 4／27 定期見学会 14名
- 4／30 地下壕（航空本部、軍令部）のマンション建設について
文化庁に要望書を提出（保存の会、戦争遺跡保存全国ネット）
- 5／7 第11回運営委員会
- 5／17 2003年度第15回日吉台地下壕保存の会総会
(慶應義塾大学来往舎シンポジウムスペース)
- 5／24 地下壕見学会 セカンドライフクラブ 33名
- 5／25 定期見学会 24名
- 6／7 地下壕見学会 神奈川朝鮮学園 高校生13名 教師1名
- 6／19 地下壕見学会（藤原工大OB）仁木会 23名
- 6／11 第1回運営委員会（日吉地区センター）
- 6／22 定期見学会 53名

★予定

- 7／2 第2回運営委員会 会報67号発行

■地下壕見学会の予定 定例見学会 7／27（日）

▲毎月第1曜日に予定していますが、変更もありますので、必ず見学窓口に申し込んでください。（045-562-0443）

◆8／21～9／23は地下壕入り口付近の工事のため、見学会はお休みします。

連絡先（会計）：白鶴邦子 神奈川区白旗向町20-49 045-402-9090

（その他）喜田美登里： 港北区下田町2-1-3 045-562-0443

ホームページアドレス：<http://www.geocities.HeatLand-Hanamizuki/2402>

前号の郵便振込口座番号が間違っていました。お詫びして訂正いたします。

日吉台地下壕保存の会会報

（年会費）一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章

（加入者名）日吉台地下壕保存の会

編集 日吉台地下壕保存会

運営委員会